

第4回 小児・老年看護 参考問題

1. パーセンタイル値、小児に用いる体格スケール

1) 第100回 午前68

体重10パーセンタイル値の説明で正しいのはどれか。

1. 1か月前と比べ体重が10%増加した。
2. 同年齢で同性の児の平均体重よりも10%軽い。
3. 同年齢で同性の児の身長相応の体重よりも10%軽い。
4. 同年齢で同性の児100人中、10番目に軽い体重である。

2) 第110回 午前53

乳幼児身体発育調査による、身体発育曲線のパーセンタイル値で正しいのはどれか。

1. 3パーセンタイル未満の児は、要精密検査となる。
2. 50パーセンタイルは同年齢同性の児の平均値を示す。
3. 10パーセンタイルは同年齢同性の児の平均より10%小さいことを示す。
4. 75パーセンタイル以上90パーセンタイル未満の児は、要経過観察となる。

3) 第95回 午前119

身体発育で正しいのはどれか。

1. カウプ指数15は正常範囲である。
2. 肥満度20%以上は高度肥満である。
3. 身長の発育速度は思春期に最大になる。
4. 骨端線の閉鎖が早いほど最終身長は高くなる。

4) 第111回 午後59

学童期の肥満で正しいのはどれか。

1. Kaup〈カウプ〉指数で評価する。
2. 症候性の肥満がほとんどを占める。
3. 食事では蛋白質の摂取制限を行う。
4. 成人期の生活習慣病のリスク因子である。

5) 第114回 午前9

学童の体格を評価するのに用いるのはどれか。

1. Kaup〈カウプ〉指数
2. Rohrer〈ローレル〉指数
3. Tanner〈タナー〉の分類
4. Scammon〈スキヤモン〉の発育曲線

II. 成年後見制度

1) 第 96 回 午前 114

成年後見制度で正しいのはどれか。

1. 家庭裁判所は保佐人を選任できない。
2. 施設入所の契約は後見人に依頼できない。
3. 判断能力のあるうちに後見人を指定できる。
4. 寝たきり高齢者の増加によって設けられた制度である。

2) 第 98 回 午後 62

高齢者の権利擁護で正しいのはどれか。

1. 成年後見制度の任意後見人は裁判所が決定する。
2. 認知症の診断とともに成年後見制度が適用される。
3. 高齢者虐待を発見した者は市町村に通報する義務がある。
4. 虐待されている高齢者を老人短期入所施設等に入所させる法律はない。

3) 第 100 回 午前 66

成年後見制度で正しいのはどれか。

1. 法定後見人は、都道府県知事が選任する。
2. 任意後見人とは、家族が後見人になる場合を指す。
3. 成年後見人は、財産管理などの法律行為を支援する。
4. 日常生活自立支援事業の一部として位置づけられる。

4) 第 110 回 午後 69

成年後見制度で正しいのはどれか。

1. 任意後見人は裁判所が決定する。
2. 認知症の診断と同時に成年後見制度が適用される。
3. 日常生活自立支援事業の一部として位置付けられる。
4. 成年後見人は財産管理などの手続きを本人の代理で行う。

5) 第 114 回 午前 43

成年後見制度で正しいのはどれか。

1. 地域生活支援事業の 1 つとして位置付けられる。
2. 後見の対象者は大体のことを自分で判断できる者である。
3. 審判を受けるための申し立て先は社会福祉協議会である。
4. 法定後見制度とは判断能力の低下に備えあらかじめ後見人を決めておくことである。

III. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準

1) 第 106 回 午前 69

A さん（65 歳、女性）は、夫と実父との 3 人暮らしである。脊柱管狭窄症の術後、地域包括ケア病棟に入院中である。退院後は自宅に戻り室内で車椅子を利用する予定である。A さんの障害高齢者の日常生活自立度判定基準は B-1 である。

看護師による家族への指導で最も適切なのはどれか。

1. 家族の生活習慣を中心に屋内環境を整備する。
2. 夜間の車椅子によるトイレへの移動は制限する。
3. 退院後の生活の課題に応じて福祉用具を選定する。
4. ベッドから車椅子への移動介助にリフトの導入を勧める。

2) 第 114 回 午前 105

次の文を読み問題に答えよ。

A さん（76 歳、男性）は妻（72 歳）と 2 人で暮らしている。ベッドからトイレに起きようとしたところ右上下肢にしびれと脱力感があり、動けなくなったため救急車で来院した。頭部 CT で左中大脳動脈領域のラクナ梗塞と診断され、緊急入院し血栓溶解療法が施行された。

既往歴：53 歳で高血圧症と診断され内服治療を継続している。

生活歴：60 歳まで食品会社に勤務していた。

入院時の身体所見：身長 168cm、体重 65kg、体温 37.2°C、呼吸数 20/分、脈拍 78/分、整、血圧 210/88mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉97%（room air）、右上下肢麻痺を認めた。

入院時の検査所見：白血球 3,600/ μ L、赤血球 420 万/ μ L、Hb 11.2g/dL、総蛋白 6.2g/dL、アルブミン 3.6g/dL、空腹時血糖 108mg/dL、CRP 0.1mg/dL。

問題 入院 2 週、A さんは自宅への退院を目指し、回復期リハビリテーション病棟へ転棟することになった。A さんは、座位姿勢での右側への傾きが徐々に改善され、食事や作業療法の時間は車椅子での座位保持が可能になってきた。A さんは看護師の介助で車椅子に移乗が可能となり、車椅子でトイレに移動できるようになった。看護師は A さんの ADL の拡大を目標に、看護計画を修正することにした。

障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準における評価で、A さんの生活状況はどれか。

1. ランク J
2. ランク A
3. ランク B
4. ランク C

●各問題の正解

I. パーセンタイル値、小児に用いる体格スケール

- 1) 4
- 2) 1
- 3) 1
- 4) 4
- 5) 2

II. 成年後見制度

- 1) 3
- 2) 3
- 3) 3
- 4) 4
- 5) 1

III. 死の三徴候・脳死

- 1) 3
- 2) 3